

～～～ 三人の偉人の年表 ～～～

ジョン万次郎		フランク安田		和田重次郎	
1827年 (文政10年)	土佐の中浜の漁師の次男として誕生。	1868年 (明治元年)	石巻市八幡町三男として誕生。	1875年 (明治8年)	愛媛県小松町(現西条市)にて生まれる。
1841年 (天保12年)	宇佐から漁に出て遭難。太平洋の孤島・鳥島に漂着。アメリカの捕鯨船ジョン・ホーランド号によって救助される。	1887年 (明治20年)	見習い船員として、外国航路の船に乗る。	1879年 (明治12年)	父源八が死亡。松山市日の出町に移る。
1843年 (天保14年)	ホイットフィールド船長の故郷であるフェアヘーブンへ。	1891年 (明治24年)	米国沿岸警備船ベアー号にキャビンボーイとして乗船。	1892年 (明治25年)	アメリカに密航、サンフランシスコに上陸後、捕鯨補助艦バラエナ号に乗り、北氷洋を航海する。
1846年 (弘化3年)	捕鯨船・フランクリン号に乗り込む。	1893年 (明治26年)	ベアー号を下船し、ポイントバローで暮らし始める。	1896年 (明治29年)	日本に一時帰国し、母に孝養を尽くす。
1849年 (嘉永2年)	一攫千金の夢を抱いて、西部カリフォルニアへ向かう。	1897年 (明治30年)	鯨組の組頭となる。	1897年 (明治30年)	ポイントバローで、ニューポート号を救援。
1850年 (嘉永3年)	金鉱で得た資金で上陸用ボートを購入、ホノルルを出発。	1901年 (明治34年)	村のリーダーに推される。	1903年 (明治36年)	フェアバンクスでの金鉱発掘を大きく報じられ、「タナナ・スタンピード」が起きる。その後、北極海沿岸を探検。
1851年 (嘉永4年)	薩摩藩領の琉球に上陸。	1903年 (明治36年)	金鉱探しの旅に出る。	1906年 (明治39年)	三つのエスキモーの村を統括するキングになる。
1852年 (嘉永5年)	土佐への帰国。高知城下の教授館に出仕。	1906年 (明治39年)	金鉱を発掘し、ビーバーへの移住が始まる。	1907年 (明治40年)	ノーム50マイル(80キロ)屋内マラソンで連続優勝し、「グレイト・ワダ」と称賛。
1853年 (嘉永6年)	幕府に招聘され江戸へ。藩校「教授館」の教授に。	1908年 (明治41年)	村づくりが始まる。	1908年 (明治41年)	ドウソンから8,000キロに及ぶ北極海沿岸を犬ぞりで探検。
1857年 (安政4年)	軍艦教授所の教授になる。	1914年 (大正3年)	アメリカの新聞が「ジャパニーズモーゼ」と称える。	1909年 (明治42年)	スワードからアイディタロットまで開拓。現在の犬ぞりレースアイディタロットのコース。
1860年 (万延元年)	日米修好通商条約批准書交換のため咸臨丸に乗り込む。	1935年 (昭和10年)	ミンクの養殖や農業経営に失敗。「アラスカのサンタクロース」と書かれる。	1920年 (大正9年)	カナダ政府の油田調査員となる。
1869年 (明治2年)	開成学校(現・東京大学)の二等教授に任命される。	1942年 (昭和17年)	敵国の人間ということで収監される。	1933年 (昭和8年)	生涯孝養を尽した母セツ、松山市日の出町で死亡する。
1870年 (明治3年)	普仏戦争視察団としてヨーロッパへ派遣される。	1946年 (昭和21年)	釈放され、ビーバー村に戻る。	1937年 (昭和12年)	サンディエゴ郡病院で死亡する。
1898年 (明治31年)	死去。	1958年 (昭和33年)	死去。		

私たちは、和田重次郎顕彰トークセッションを協賛します。

西日本最大級の
専門学校グループ



河原学園

松山市一番町1-1-1 TEL:089-943-5333 <http://www.kawahara.ac.jp>



松山大学

<http://www.matsuyama-u.ac.jp/>